

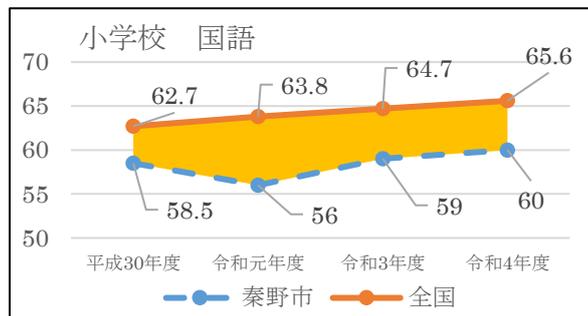
令和4年度全国学力・学習状況調査結果の分析について

秦野市教育委員会

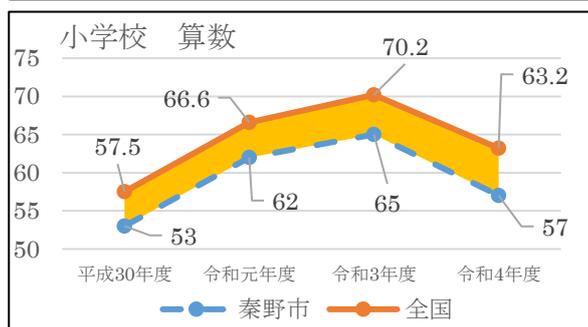
1 小学校（6年生）の調査結果の概要（令和2年度は未実施）（単位：％）

(1) 各教科の正答率等について

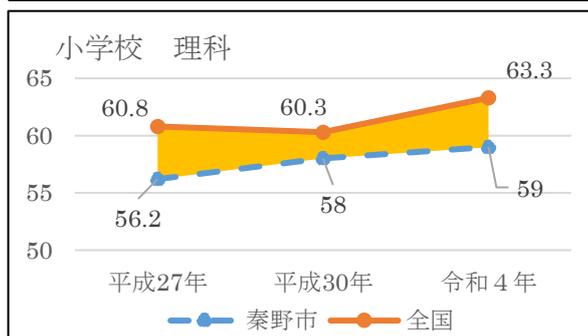
小学校	国語			
	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年
秦野市	58.5	56	59	60
神奈川県	62	61	63	65
国	62.7	63.8	64.7	65.6



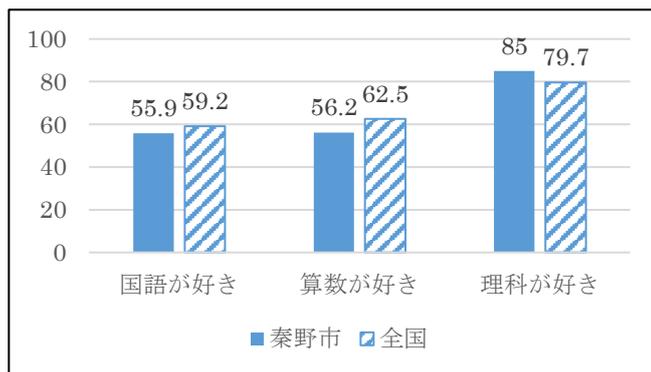
小学校	算数			
	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年
秦野市	53	62	65	57
神奈川県	58	67	70	64
全国	57.5	66.6	70.2	63.2



小学校	理科		
	平成27年	平成30年	令和4年
秦野市	56.2	58	59
神奈川県	60.4	60	63
全国	60.8	60.3	63.3



	小学校		
	国語が好き	算数が好き	理科が好き
秦野市	55.9	56.2	85.0
神奈川県	59.9	63.1	79.7
全国	59.2	62.5	79.7



(2) 結果の分析について

ア 国語や理科については、資料から必要な情報を読み取り自分の考えを記述するような設問の無回答率が高い傾向にあります。

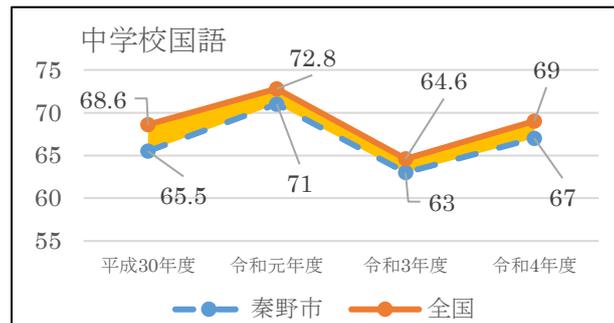
イ 算数については記述式の設問の正答率が低い傾向にありますが、無回答率が目立って高いわけではないことから、式や言葉を使った記述の仕方を身に付けることで正答率は改善すると見えています。

ウ 特徴的な設問として、プログラミングを活用した図形の作図の仕方について考える設問が出題されています。基礎的な知識・技能について、プログラミングを始めとして様々な場面で活用するための力の育成が一層求められているとみえています。

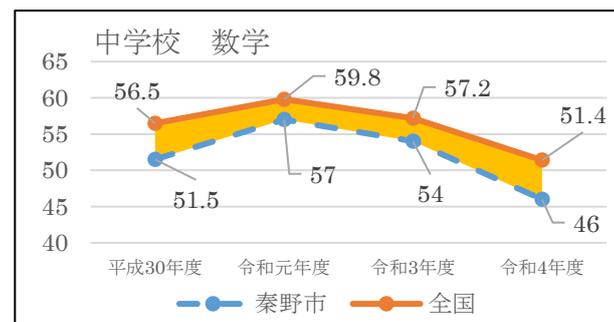
2 中学校（3年生）の調査結果の概要（令和2年度は未実施）（単位：％）

(1) 各教科の正答率等について

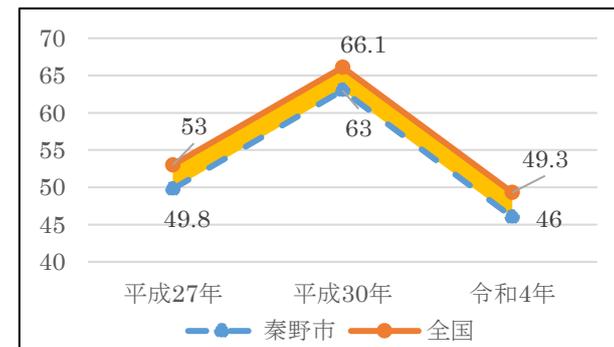
中学校	国語			
	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年
秦野市	65.5	71	63	67
神奈川県	69	73	65	69
全国	68.6	72.8	64.6	69



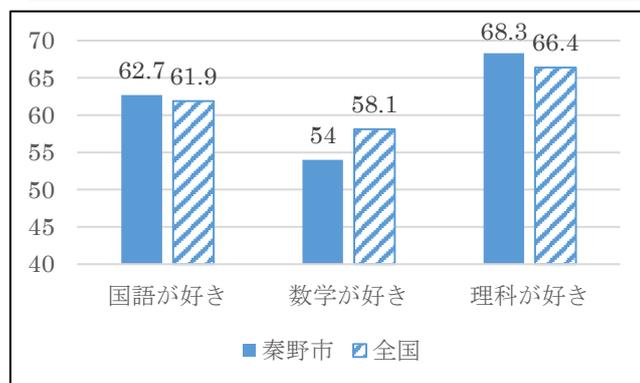
中学校	数学			
	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年
秦野市	51.5	57	54	46
神奈川県	57	60	58	53
国	56.5	59.8	57.2	51.4



中学校	理科		
	平成27年	平成30年	令和4年
秦野市	49.8	63	46
神奈川県	52.8	66	50
全国	53	66.1	49.3



	中学校		
	国語が好き	算数が好き	理科が好き
秦野市	62.7	54	68.3
神奈川県	64	60.1	64.2
全国	61.9	58.1	66.4



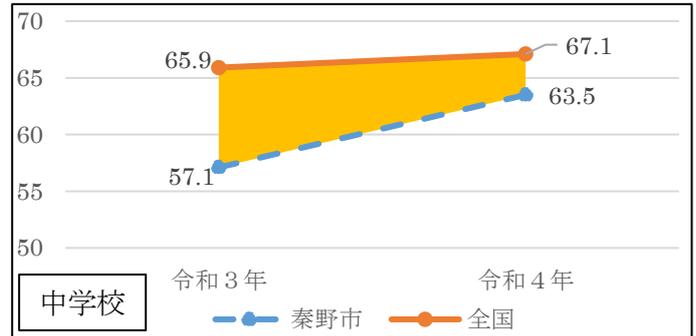
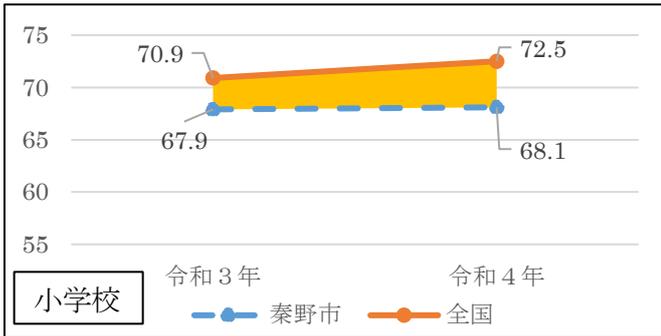
(2) 結果の分析について

- ア 国語だけでなく他の2教科も、根拠を明確にして考えを記述したり、筋道を立てて説明したりする記述式の設定の無回答率が高い傾向にあります。
- イ 国語については、知識・技能の正答率が高い傾向にあります。また、「国語・理科が好き」と答えた生徒が全国平均を上回っており、日々の取組の成果が現れています。引き続き学習意欲を高める声掛けや授業の工夫が必要であると考えています。
- ウ 各教科の設定を分析すると、図や表、グラフ等、様々な資料の中から必要な情報を選択し考えをまとめる力が重要となっています。現行の学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」への授業改善が急務となっています。

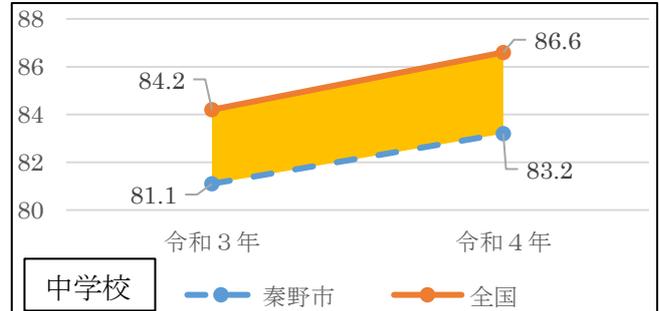
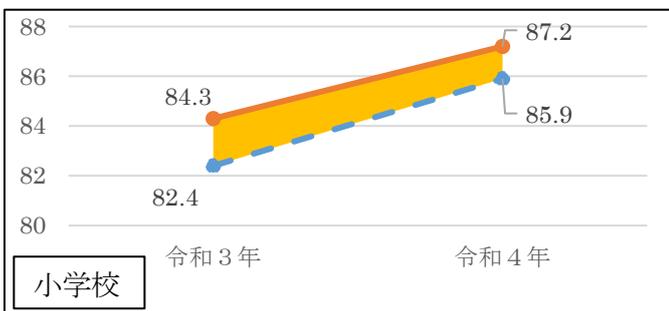
3 質問紙調査結果の概要（単位：％）

(1) 非認知能力に関すること

ア 難しいことでも失敗を恐れず挑戦している



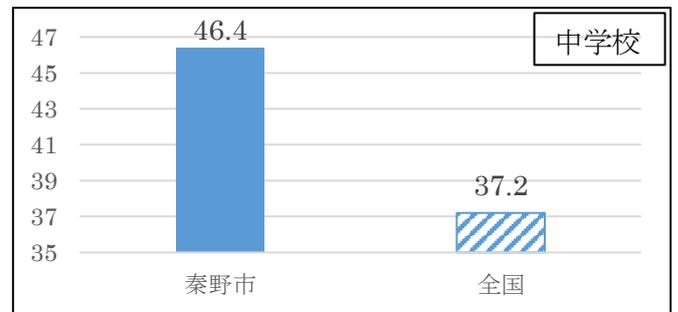
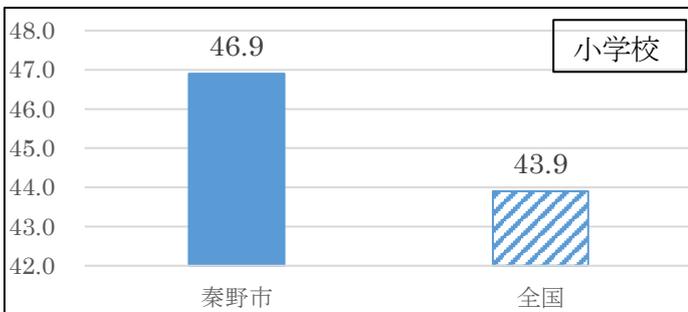
イ やると決めたことは、やり遂げるようにしている（非認知能力について）



(2) ICT機器の活用に関すること

ア 授業中の調べる場面でICT機器をどの程度使っているか（令和4年度より新設の項目）

※週3回以上活用していると回答した割合



(3) 結果の分析について

ア 小・中学校ともに、学力の基盤として着目され非認知能力の指標ともなる「失敗を恐れずに挑戦しようとしたり、最後までやり遂げようとしたりする態度」の数値が向上しており、**学びの基盤プロジェクトによる授業改善等や教育活動全体での工夫の成果**と見ています。

イ ICT機器の活用については、小中学校とも全国平均を大きく上回っており、授業での「協働的な学び」への有効活用はもとより、ICTマイスターを中心としたコロナ禍でのオンライン学習における活用も進んでいるとみています。引き続き、平均正答率の改善につながるよう**家庭学習も含めた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善を推進**します。

ウ 小・中学校ともに、全国と比べてコンピュータやスマートフォン等をゲームで活用する時間が長い一方で、読解力の基盤となる読書に関する数値には課題が見られます。**ICT機器の適切な利用と読書活動の推進への対策が重要**とみています。

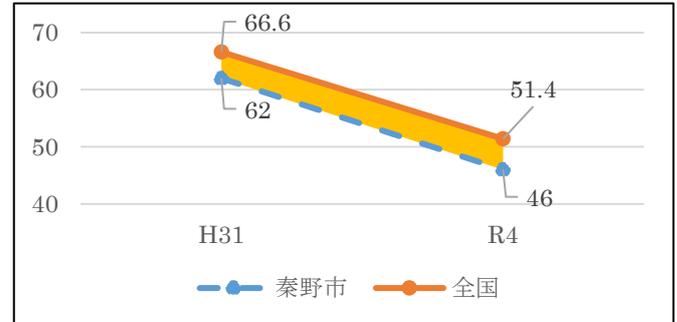
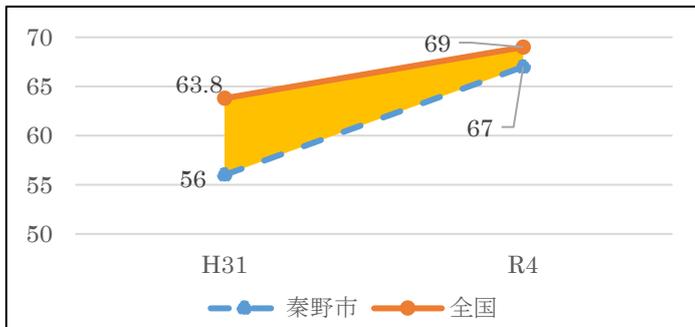
4 本市独自の分析の視点（単位：％）

平成 31 年度小学校 6 年生は令和 4 年度の中学校 3 年生となり、経年変化を分析しました。

(1) 教科の正答率に関すること

	国語	
	平成 31 年	令和 4 年
秦野市	56	67
全国	63.8	69

	算数・数学	
	平成 31 年	令和 4 年
秦野市	62	46
全国	66.6	51.4



(2) 分析結果について

初めての試みでもあり、まだ分析までには至りませんが、小中一貫の教育が目指す「学びの連続性確保」の視点で次年度以降も着目し分析していく予定です。

5 教育水準の改善向上に向けた市全体の方向性

- (1) 学習指導要領に示される資質・能力の育成に向けて、学びの基盤プロジェクト等の非認知能力に着目した授業改善等や働き方改革を含め教育活動の全体での工夫を更に推し進める。

【関連施策】

- 学びの基盤プロジェクト
- スマートスクール研究事業
- 教科担任制の推進

- (2) プログラミングの設問を始めとして、学んだ知識を実生活で活用するための力を求める設問が多くなってきていることから、学習指導要領が目指す学力観に沿った授業改善と児童生徒が意欲的に学習に取り組み力を発揮できるよう支援体制を強化していく。

【関連施策】

- 学びのステップアップ講座
- 学力向上推進研究委託
- 教育DX推進事業

- (3) 本市の課題の解決に向けて、資料から必要な情報を読み取り自分の考えを記述するような取組を始めとした、具体的な授業改善を各校と協働して推進する。

【関連施策】

- 学びのステップアップ研究推進委託
- かながわ県学びづくり推進事業
- NIE 教育（新聞を活用した教育）実践研究

- (4) ICT機器の効果的な活用により家庭学習も含めた「個別最適な学び」と「協働的な学び」への授業改善を更に推し進めるとともに、読書活動の推進も含め小中一貫した取り組みを推進する。

【関連施策】

- ICTマイスタープロジェクト
- 読書活動の推進に係る実践研究
- 寺子屋学習支援事業